

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	--------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	参事（教育指導課長）	春日 仁史	電話番号	0852-22-5444
----------	------------	-------	------	--------------

事務事業の名称	県立高校図書館教育推進事業			
目的	(1) 対象	県立高等学校の生徒、教職員		
	(2) 意図	学校図書館の充実と活性化を図り、読書をととして生徒の豊かな心を育むとともに、学校図書館を活用した教育を展開することにより、主体的な学習態度、思考力・判断力・表現力を身につけさせる。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての県立高校の学校図書館を「人のいる図書館」にし、学校図書館の機能充実と活性化を図るため、学校司書が配置されない小規模校に非常勤嘱託職員の司書を配置する。</li> <li>学校図書館担当教職員のスキルアップのため、研修の支援を行う。</li> </ul>			

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	図書貸出数	目標値	7.0	7.3	7.6	8.0	冊
	式・定義	司書配置事業対象校における生徒1人あたりの年間図書貸出数	実績値	6.6				
			達成率	—	—	—	—	%
2	指標名	学校図書館活用教育	目標値	8.0	8.2	8.4	8.5	教科
	式・定義	司書配置事業対象校における、1年間に学校図書館を活用した授業を行った教科数	実績値	8.1				
			達成率	—	—	—	—	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	32,972	34,981
うち一般財源 (千円)	32,972	34,981

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・図書貸出数は、平成23年度の事業開始以来、5、4冊から6、0冊の間を推移しており、27年度実績の6、6冊という数字は、司書配置をはじめ司書のスキルアップ研修等を実践してきた本事業の成果であるといえる。学校によっては減少に転じたところもある。

・学校図書館を活用した授業は、平成23年度の4、8教科から着実に広がりを見せ、26年度の6、2教科から、27年度実績は8、1教科にまで上昇した。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

・本事業により、中山間離島地域にある小規模校にも司書が配置された。専門職員による図書館の整備や図書貸出の推進等により、生徒や教職員に対する種々の資料提供や授業支援の幅が広がった。また他校や公立図書館との相互貸借等が進み、地域的なハンディキャップを埋める一助となった。

・平成27年度における事業対象校の生徒1人あたりの図書貸出数および学校図書館を活用した授業を行った教科数は、ともに本事業が始まった23年度以来最高値となった。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 28年度より三刀屋高校掛合分校も事業対象校となり、分校を含む全ての県立高校を「人のいる図書館」にすることはできた。学校図書館の活用状況や校内体制は、学校間の差が大きい。図書貸出数や学校図書館を活用した授業を行った教科数も、前年度より大きく減少に転じた学校がある。
  - 非常勤嘱託職員の学校司書は、立場が不安定である。また、正規司書との職能差が大きい。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 学校の協力体制が十分でない。
  - 総じて教員に具体的な授業イメージが描けていない。
  - 教科や教員によって学校図書館を活用した教育への取り組みに差があり、熱意ある教員の転出等の要因によって、図書館活用実績が減じる傾向がみられる。
  - 非常勤嘱託職員の学校司書を正規職員の職能に近づける方策が確立されていない。
- ③原因を解消するための「課題」
- 学校での協力体制を構築し、学校図書館を活用した授業のイメージを教職員で共有する必要がある。
  - 学校司書の職能を形成する支援を行う必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・中・高等学校図書館活用研修を行い、司書教諭だけでなく校内の協力体制による学校図書館活用教育を推進できるようにする。

・各種研修会等で、小中学校で実施されている学校図書館を活用した授業例を紹介し、高校での授業のイメージを共有する。さらに図書資料に加え、ICTによる情報収集による高校での活用型授業のイメージの構築へつなげていくことを目指す。

・学校司書の職能向上を期し、「勤務経験5年目以下の学校司書への研修支援」や「学校司書フォローアップ研修」（学校司書経験3年以下の学校司書の求めに応じて、支援員として委嘱した学校司書が訪問等により指導助言を行う）などを実施し、人材育成を図る。またこれらの活動を通して、校内で一人職の学校司書を支え、学校図書館の活性化を図る。

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）